

農業版事業継続計画書 簡易版

策定・改定日	令和4年2月1日	従業員・家族共有日 (原則策定・改定日から1ヶ月以内)	令和4年2月1日	次回改定予定日 (原則1年毎に改定)	令和4年4月1日
--------	----------	--------------------------------	----------	-----------------------	----------

想定リスク	時期: 夏季から初秋(7月～10月) 想定災害: 台風や集中豪雨等による浸水被害 自宅の状況: ●町は川に囲まれた低地である 最大浸水: 水の深さ5～10m(●町防災マップ参照) 圃場の状況: 自宅から直線距離で500m程度 最大浸水: 水の深さ5～10m(●町防災マップ参照) 作業場の状況: 自宅に隣接(状況は自宅に同じ) 機械置場の状況: 自宅及び圃場に隣接(状況は自宅に同じ)
-------	---

1. 基本方針

緊急事態発生時には、以下の基本方針に則り対応する。

1	社員の命を守る
2	いちごを守る
3	雇用を守る

2. 重要業務と目標復旧時間

以下の業務の復旧を最優先とし、目標復旧時間内の復旧を目指す。

重要業務	定植作業を完遂
目標復旧時間	定植後活着を維持

3. インフラ等の被害による重要業務への影響と対応(代替手段等)

種別	影響	対応(代替手段等)
電気	灌水、施肥、温度管理ができない	非常用電源の設置、手動作業に変更
ガス	ガスボンベは11月に設置、4月撤去	設置期間外
水道(農業用水含む)	井戸水で灌水ができない	灌水タンク、動力噴霧器にて灌水
情報通信	取引先に連絡ができない	電子メール、LINE等複数の連絡手段を事前に把握する
交通	パート、社員が出勤できない	無理のない範囲で自力通勤
ほ場等	いちご苗が水没、畝の崩落	いちご苗の新規購入、畝修復
その他		

4. 事前対策の実施状況

分類	項目	
ヒト	安否確認手段	LINE 連絡体制 社長から全員に安否確認
	避難場所	●公民館、●町役場
	欠員時の対応	地域の農業者と連携して協力体制を構築
モノ	設備使用不可時の対応	非常用電源の確保、動力噴霧器による手灌水、ハウス資材の確保先と事前調整
	調達支障時の対応	いちご苗の融通先を調整
	その他	
カネ	手元資金	運転資金のみ
	その他	備考
セーフティネット	保険加入	収入保険の加入、農業共済への加入
	その他	備考
情報	重要情報保管場所	外付けハードディスク、PC内、クラウド上
	PC等使用不可時の対応	紙ベースでの運用
	その他	
地域連携	農業機械等の避難場所確保について協議中	

5. 緊急時の体制

総括責任者(代理者)	事業継続担当責任者(代理者)
社長	A氏

【初動対応フェーズ】(目安: 緊急事態発生～24時間以内)

○状況確認

確認対象	担当者
役員・従業員 家族を含めた安否確認	社長
建物・設備 ITを含む状況	社長
その他事業資源 肥料・飼料・農薬等の在庫	社長
取引先 状況確認	社長
インフラ 電気・ガス・水道・交通等の状況	社長
その他	

○備蓄品の状況

救急箱	1セット	その他:	
飲料水	13ℓ × 2個	その他:	
食料		その他:	
ヘルメット	3個	その他:	

○出勤・帰宅ルール

状況	原則ルール
出勤時	作業所内待機
在宅時	自宅待機
その他	

【事業継続フェーズ】(目安: 初動対応完了後～)

○重要業務継続の具体的方法

対応手順	担当者
①現状把握(発生～24時間)	出勤可能者全員
②ハウス関係資材確保(ハウスの状況確認後・速やかに発注)	社長
③新たな苗の発注・確保(苗の水被り状況確認後)	社長
④畝の崩壊を修繕(水が引いた後)	出勤可能者全員
⑤燃料、肥料、農薬等資材の発注・確保	社長
⑥復旧労働力の確保(ハウス、苗等資材が届くまでのうちに)	社長

BCP策定後の運用	
-----------	--